

- デジタルvs. アナログの世界について改めて考えさせられる。Jay Y. Kim. Analog Church: Why We Need Real People, Places, and Things in the Digital Age. Downers Grove, IL: IVP, 2020. という本。
- 旧約聖書の預言書「イザヤ書」を通して語られる神さまのことばに心を向けたいと導かれた。
- 預言書は非常に長く正直分かりづらい。なぜか。
  - ・ 時代背景が異なる。南王国のユダ。繁栄時代の末期。外的圧力（アッシリア帝国）危機。
  - ・ 繰り返しが多い。
  - ・ 内容が厳しい。
    - ◇ 預言者が「見たことば」（2:1）は他の人と違う（cf. 2 Ki 6:15-16）。故に誤解されやすい。可視的な「現実」と不可視的な「現実」の存在。
    - ◇ 「幻」（単数形）。
- 余談：John Piper牧師の本、「Coronavirus and Christ」の提言。6つの提言。
- 私たちは罪深い！？（1:1-8）
  - ・ ここで描写されている内容は私たちの姿。
    - ◇ 祝福されようとしている神さまに対して私たちは背を向ける。「知らない」という。
    - ◇ しかし、それでも神さまは私たちを「わたしの民」（3節）と呼ばれる。
- 私たちはこのようだ。でも、神さまはこのような私たちに対してでさえも憐れみを示される。それが9節のことば。
- イザヤ書の冒頭のことばは、私たち自身の自己栄華を脱構築させることにより、神さまを崇める、この神さまが与えてくださっている救いの道へと招かれ導かれる。
- NHKのEテレ「こころの時代」でコヘレト（伝道者の書）小友聡さんと若松英輔さんの対話。
- 「イザヤ」という名。「主は救われる」という意味。預言者の名前が既に私たちの神さまの性質をあらわしている。しかし、イザヤのメッセージは当時（今も？）受け入れられなかった。
  - ・ 同時に、私たちがこのお方から離れて生き続けようとするとき、どのような状態になるのかを示している。自らが運転手になりたがる私たちの性質がある。己が解決策。私たちは実はvulnerable、非常に脆く傷つきやすい存在であるが、それを受け入れたがらない。
  - ・ 伝統によればイザヤはその生涯を殉教の死で終える（James H. Charlesworth. Old Testament Pseudepigrapha Vol. 2, "Martyrdom and Ascension of Isaiah," pp. 163-4. cf. Heb 11:37）。何が彼の信仰を支えたのか。
- イザヤが賢明に宣べ伝えたこの神さまとは、罪を忌み嫌い裁かれる聖なるお方である。
  - ・ 申命記32:39
- 聖書が語り示す神さまとはこのようなお方である。傷つけることもお出来になるし、癒やすこともできる。いや、むしろ、私たちが癒やしたいと望まれる。
  - ・ 私たちを癒やすために私たちの身代わりとなって傷つけられ、いのちを捧げてくださったお方がいる。主イエス・キリストである。イザヤ53:5
- 今のこの時代に、声高に何かを発言することはできないかも。偉業を成し遂げることもできない。何かをチェンジすることもままならない。でも、私たちにできることがある。それはこの時代のことを覚えておくこと、神さまのみことばに聴き、祈ること、そしてこの万軍の主なる神さまは私たち罪人を救われるお方であることを知り伝えていくことである。